

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記3

国立市立国立第七小学校

平成27年11月20日 NO.69 (269)

モンタ博士「カブトムシやクワガタムシなどを『甲虫』というんだけど、知っていたかな。」

オー君 「もちろんですよ。かたい甲羅を持っているからですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。それから、前の羽が刀の鞘のようにかたくできているので、
むずかしい言葉で『鞘翅目』ともいうんだよ。この仲間は、昆虫の中でも、
もっとも種類が多くて、昆虫界の王様だね。」

花ちゃん 「どんな仲間がいるのですか。どんなところで生活しているのですか。」

モンタ博士「まず、水の中に住んでいる甲虫がいるね。」

ゲンゴロウやミズスマシなどさ。」

オー君 「体のあちこちに空気をため、ときどきは水面
に出てきて空気を取り入れたり、いろいろと
工夫しているみたいですよ。」



ゲンゴロウ

モンタ博士「木に住んでいる甲虫もいるよ。タマムシやカミキリムシなどさ。
この仲間は、成虫になる時に大きな穴を開けて外に出てくるんだよ。」

オー君 「葉っぱに住んでいるオトシブミや、キノコに住んでいるキノコムシやゴミム
シダマシなどもいるんですよ。モンタ博士！」

モンタ博士「そうだね。オトシブミは葉を食べたり、すみかにするんだ。葉でゆりかごを
作り卵をうむんだよ。それはそれはおもしろいことをするんだ。」

オー君 「木の実の中に住むゾウムシの仲間もいるんだよ。」

モンタ博士「ずうっと前にもお話したけど、ドングリの中に卵をうむクリシギゾウムシ
やハイイロチョッキリムシなどもいるのさ。」

オー君 「もちろん、花の蜜や花粉を食べるのもいろいろ
とたくさんいるんだよ。」

モンタ博士「春から夏に咲く花には、ハナムグリをはじめ、
いろいろな甲虫がやってくるんだ。」



クリシギゾウムシ

オー君 「それから、カタツムリを食べるマイマイカブリや小さな虫を食べるオサムシや、アブラムシを食べるテントウムシなんかもみんな甲虫なのさ。自分が食うか食われるか、みんなたいへんな思いで生活しているんだ。」



マイマイカブリ

モンタ博士 「ハンミョウの幼虫は、穴の中にかくれていて、とおりかかる小さな動物を穴にひっぱりこんで食べてしまうのさ。」

オー君 「オサムシは、空を飛ぶことができない虫で、地表をはいまわりながら小さな動物をとらえて食べてしまうんだ。」

モンタ博士 「それから、シテムシやコガネムシの仲間は、動物の死がいやくさったものを食べるやつもいるんだよ。」



カフトゴミムシダマシ

オー君 「こいつらは、森や野原のおそうじ屋さんみたいなものなんだ。」

モンタ博士 「カツオブシムシなんてやつは、野外では動物の死体や鳥の羽を食べますが、人間の生活に入りこんだものは、毛糸のセーターや毛皮なども食べてしまうんだからおどろきだね。」



カツオブシムシ

オー君 「いろいろとおどろくことがいっぱいだけど、まだいるんだ。さらにおどろくことに、フンコロガシとって、ウンチ、つまりふんの中に住んでいるやつもいるんだ。『ふん虫』と呼ばれるコガネムシの仲間は、動物のふんの中にすんでいるんだ。」

モンタ博士 「ウンチ、つまり『ふん』だって、とっても大切な食べ物ということだね。」

花ちゃん 「へえー、おどろきました。甲虫という昆虫の世界には、いろいろな生き物がいるんですね。とっても勉強になりました。これからも、いろいろな虫をじっくりといていねいに観察していきまーす。」



フンコロガシ